



緊張した面持ちで開会を待ちます

中学生議会

身近な問題を次々と質問

中学生に議会の役割や仕組みを学んでもらい、市政に対する関心を深めてもらおうと「中学生議会」が10月5日、市議会議場で開催されました。今年度は、市内10中学校から代表22人が出席。身近な問題から市の将来に関することまで中学生の視点からさまざまな事柄を質問しました。今回は、そのうちの主な質問とそれに対する答弁を紹介します。

学区の整理について

吾妻中学校

それだけの人数差があることは、良いことではないと思います。学区の整理についての考えをお聞かせください。

学校間の生徒数の差

学区の変更、設備の充実度

わたしが通っている吾妻中学校の全校生徒は、約2000人です。隣の西中学校とは、600人以上の差があります。歩いて行けるほど近い隣の学校とこれだけの人数差があるのは不公平だと思います。大規模な学校と小規模な学校では、生徒数が違うだけではなく、部活動の数、設備などでも格差が生まれてしまうと思います。小規模な学校では制限されるものもあります。

わたしが不安に感じているのは、進路に関することです。卒業生の数の違いが進路先の数の違いに出てくることもあると思います。卒業した先輩から直接的な情報を得られるという点では制限されることもあります。先生方に支えられているとはいえず、不安に感じています。まうことがあります。

こうした学校間の生徒数の差は、学区の広さにも関係があると思います。

また、大規模な学校では目が行き届かないという部分が出てしまう心配があります。同じ市内でこ

学区の変更や設備の充実度についての今後の見通しを聞かせてください。



議長を務めた山本莉夢さん(玉造中学校・左)と伊藤幹夫さん(吾妻中学校)

【教育長】
学校間の生徒数の差

成田市には現在、公立の小学校31校、中学校9校の合計40校の学校があります。これらの学校の中には、さまざまな事情により、2つの学年で1つの学級を編制する複式学級が避けられない小規模な小学校や、1学年8学級を超える大規模な中学校もあり、児童・生徒の教育環境に大きな差が生じてきていることが課題となっていました。

そこで教育委員会では、「子どもたちにとってより良い教育環境はどうあるべきか」という視点に立ち、学校の適正な規模や配置のあり方、学区の再編成などについて検討し、その結果を平成20年3月に「学校適正配置案」として市



答弁する佐藤教育長

民の皆さんに示しました。

その後、現在に至るまで、過小規模校、過大規模校の解消を最優先課題とし、地区の方々と、保護者、児童・生徒の皆さんとの話し合いを続けてきました。

その結果、平成21年4月に豊住中学校が成田中学校と統合され、来年4月には、中郷小学校が美郷台小学校に、久住第一小学校と久住第二小学校が久住小学校として、平成26年4月には下総地区4小学校が1つの新たな小学校にそれぞれ統合されることが決定しています。

また、過大規模校となっている西中学校は、平成25年に新たに中学校を公津の杜地区に建設し、分離する予定です。併せて、現在中台中学校の学区である加良部地区の中学校の学区も見直しを行っていきます。

なお、吾妻中学校は、はなのき台地区の人口が増加することにより、10年後には全校生徒500人の適正な規模の学校になることが

見込まれています。

このように、現在は小規模な学校であっても、数年後には適正な規模の学校になることもあるため、学区の整理はある程度、長期的な展望に立つて行っていく必要があると考えています。

学区の変更、設備の充実度

学校の学区は、児童・生徒の通学距離や時間、学校の規模、地域性などを十分勘案して定めています。学校は、それぞれの学区の中で地域と密接な関係を持ち、地域の方々の心のふるさとと呼べる存在にもなっています。

吾妻中学校については、ニュータウン地区の開発に伴う人口増により、昭和53年に西中学校の学区の一部を加え、中台中学校から分離新設する形で開校しました。昭和60年には、吾妻中学校から玉造中学校が分離新設する形で開校した歴史があります。

現在は、中学校では小規模となる各学年とも2学級の規模ですが、吾妻中学校は、将来の人口推計をもとに計算すると、10年後には各学年5〜6学級の適正な規模の学校となる予定です。したがって、早急に現在の学区を変更することは考えていません。各学校の学区が長い歴史の中で培った地域



出席した中学生議員
(質問順・敬称略)

下総中学校…藤城悠里、弓田桃子
大栄中学校…山本明洋、小幡加奈
成田高校附属中学校…宮澤敦義、鈴木龍磨
成田中学校…田頭未来、城之内緋依呂
吾妻中学校…儀部宏幸、新井清乃、伊藤幹夫

遠山中学校…柴野萌子、香取真央
久住中学校…木村良美、金田健志郎
西中学校…市川恵里奈、福井友菜
中台中学校…玉木菜摘、松野峻也
玉造中学校…高橋拓也、稲場優希、山本莉夢

中学生議員からの質問(質問順)

下総中学校	羽田空港のハブ化について	
	①	今後の成田空港の運営について
大栄中学校	成田市の交通事情について	
	①	バスの路線変更および高校生の通学交通費補助について
成田高校 付属中学校	大地震が発生したときの成田市での対応について	
	①	地震予知情報を受信できない方への情報伝達について
成田中学校	学校の安全について	
	②	災害時の水や食料の支給について
吾妻中学校	学校の安全について	
	①	校内不法侵入対策について
遠山中学校	成田市の学区の整理について	
	①	校内不法侵入対策について
久住中学校	成田市の学区の整理について	
	②	防犯カメラの設置、見回り強化、青色防犯灯の設置について
西中学校	成田市の学区の整理について	
	①	学校間の生徒数の差、学区の整理について
中台中学校	成田市の学区の整理について	
	②	学区の変更、設備の充実度について
玉造中学校	土屋駅の実現について	
	①	土屋駅の実現について
西中学校	土屋駅の実現について	
	②	遠山地区からの交通手段について
中台中学校	久住駅前安全対策について	
	①	久住駅前交差点の信号機設置について
玉造中学校	久住駅前安全対策について	
	②	久住駅前の管理強化について
玉造中学校	子宮頸がんにかかる予算について	
	①	子宮頸がん予防接種の助成について
玉造中学校	子宮頸がんにかかる予算について	
	②	子宮頸がん予防接種の助成対象年齢について
玉造中学校	地球温暖化に対する成田市の取り組みについて	
	①	成田市の地球温暖化に対する取り組みについて
玉造中学校	地球温暖化に対する成田市の取り組みについて	
	②	成田国際空港のCO ₂ 削減対策および中学校におけるエアコン使用について
玉造中学校	外国人との交流について	
	①	外国人との国際交流について
玉造中学校	外国人との交流について	
	②	中国、韓国などの人々との交流について

との密接な関係は、学校にとって大変貴重な財産となっております。そうしたことから、学区の見直しをする際には、長期的な展望に立ち、その学校に通う児童・生徒、そして保護者や地域の皆さんの願いなども考慮しながら、子どもたちの夢を育む教育環境を共に考えて、慎重に検討していくべきと考えています。

次に学校の設備の充実度についてですが、学校規模による格差は無いものと思っております。ただし、それぞれの学校が建設された年が異なることから、施設の経年によ

る劣化は避けられず、学校による差が生じることは、やむを得ないものと考えますが、どの学校で勉強することになっても、授業に支障をきたすことのないよう、今後とも施設、設備の充実を図っていきたいと考えています。

子宮頸がんにかかる予算について

西中学校



らの手紙や先生、母などから子宮頸がんについて、いろいろな話を聞きました。普通に接種したら、

1万5,000円ほどの費用がかかります、それを3回繰り返すと聞いたのですが、成田市は接種をした際に、9,000円を上限として補助してくださるということでした。成田市に住む小学5年生から中学3年生までの女子児童が全員接種した場合、どのくらいの市の予算がかかるかを予想していますか。また、補助金の負担の費用といったものは、どのようなことから補ってしているのでしょうか。

【市長】
子宮頸がんの助成
 子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成事業は、接種費用の2分の1を市から皆さんの保護者に助成することとし、1回当たりの助成額は、上限額を9,000円とされています。
 助成対象としている小学5年生以上中学3年生以下の女子の全員が、子宮頸がん予防ワクチンを1人当たり3回接種した場合、ワクチン接種にかかる助成総額は、9,136万8,000円が見込まれることとなります。
 なお、今年度は900万円を予算に計上していますが、子宮頸がん



答弁を聞く中学生議員

ん予防ワクチンは、希望者を対象とする任意の予防接種ですので、予算額以上の申請があった場合でも、接種した人全員に助成できるよう対応したいと考えています。費用については、子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成は、成田市独自の事業として行っているもので、その財源は、皆さんから納めていただく市民税などであ

り、国や県の補助金などを充てているものではありません。子宮頸がんは、唯一、ワクチン予防接種でがんの発症を効果的に予防できるワクチンといわれていますので、対象年齢になりましたら保護者と相談した上で子宮頸がん予防ワクチンを接種するよう勧められています。

また、市では、20歳以上の女性

を対象とした子宮がん検診や30歳以上の乳がん検診など女性特有の検診を実施しており、一人でも多くの人に受診していただくことで、市民の健康増進が図れるように努めています。

予防接種の助成対象年齢

子宮頸がん予防ワクチンは、発がん性ヒトパピローマウイルスの感染でがんが発症する子宮頸がんを効果的に予防するワクチンとされていますので、市では、市民の健康増進を図るために高価なワクチン接種費用の一部助成を開始したものです。

予防接種は、抗体を作るまでに少し時間がかかります。この予防接種は3回の接種が必要で、初回接種から1カ月後に2回目を接種、さらに初回接種から6カ月後に3回目の接種を行うというように、一定の接種間隔が必要になります。

子宮頸がんは、幅広い年代の女性にみられますが、特に最近は、20歳代から30歳代の女性に急増しており、予防ワクチンの必要性が高まっています。

市では、子宮頸がん予防ワクチン接種費用の助成制度に関する規則を定め、現状では、その対象者を小学5年生から中学3年生までの女子としていますので、ワクチン接種を受ける日に高校生であったり、小学4年生以下であった場合は、接種費用の助成対象にはなりません。

しかしながら、ワクチン接種は、医療機関の予約制によるという状況なども踏まえ、今後、2回目または3回目の接種日が高校生になつてしまった場合も助成の対象となるように検討していきたいと考えています。

この対象年齢は、体の成長度や、ウイルスに関する抗体がでやす

く、感染の可能性が低い10歳代前半が接種に適している時期であるといわれていることによります。

市では、県内の他市町村に先駆けて、この助成制度を導入しましたので、より多くの皆さんに活用していただきたいと思います。

※今回の質問と答弁は市民協働課ホームページ(<http://www.city.narita.chiba.jp/sisei/sosiki/kyodo/>)または行政資料室(市役所1階)で、後日公開します。くわしくは同課(☎20-1507)へ。

中学生議事を終えて

「今日の体験を記憶に残して」



成田市長 小泉 一成

7回目を迎えた中学生議会ですが、各中学校からいただいた質問は、成田市が直面している重要課題に関するもの、地域に密着したもの、あるいは身近な学校生活に関するものなど、いずれも素晴らしい内容でした。

皆さんのご意見やご提言の一つ一つからは、日ごろから、成田市のことを真剣に考えていることが伺え、同じ市民として、そして市政を預かる者として、大変心強く、そして誇らしく、頼もしく思います。

皆さんからいただいた貴重なご意見は、「住んで良し、働いて良し、訪れて良し」、そして、生涯を完結できる空の港町づくりのために、大いに参考とさせていただきます、今後の成田市の発展に役立ててまいります。

皆さんも、本身体験した「中学生議会」をぜひとも記憶に残していただき、これからも成田市のより良いまちづくり、地域づくりについて、考えていただければ幸いです。

そして、できることならば、次は議員として、この席に戻ってきたいだけだと思います。

皆さんの輝く未来、そして夢、可能性の実現のためにも、今後も学業や部活動に専念され、充実した中学校生活を過ごすことができよう、心からお祈りいたします。